

第8回 真砂地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年3月25日(水) 16時00分～18時00分

2 場 所 真砂コミュニティセンター 第1講習室

3 出席者

(1) 委 員

※欠席委員：出町委員

(2) 事務局

山崎課長、古館主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 6名

4 議題

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

5 会議資料

(1) 資料1 中学校の適正配置について(平成21年3月版)

6 議事の概要

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

資料をもとに、真砂地区の中学校の適正配置の方向性について協議し、中学校についても、統合することを真砂地区の方向性とする事とした。

7 会長挨拶

委員の皆様には、大いに意見を出していただき、真砂地区の中学校についても、良い方向性が見出されるようにしていただきたいと思います。

8 発言要旨

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

ア 入学率と小中一貫教育校について

〈富田議長〉

本日は、前回に引き続き、真砂地区の中学校の適正配置について協議したい。

前回の協議会の中で、二つ事務局に対して質問があった。一つは「千葉市全体の入学率と真砂地区との入学率との比較について」、もう一つは「千葉市の小中一貫教育の考え方について」である。まず、この二点について事務局から説明していただき、質疑応答を行いたい。

〈事務局〉

一つ目の「入学率」についてであるが、千葉市の小学校6年生に当たる年齢の住民基本台帳上の人数と次年度の実際の千葉市立の中学校1年生の生徒数との割合を計算し、過去4年間の平均値をとったものであり、平成20年度の推計においては、平成17年度から平成20年度の割合の平均値となる。中学校については、千葉市全体の入学率は0.88、真砂地区の入学率は0.86である。真砂第一中と真砂第二中を統合した場合、平成26年度推計で普通学級の生徒数は422人と予測されるが、逆にこの数字を0.86で割り返して得た491人が、仮に真砂地区の中学校の入学率が1だとした場合の人数となる。その差は69人であり、各学年23人程度増加するに過ぎず、学級数も全体で2学級程度増加するだけである。

次に小中一貫教育校については、現在教育委員会において、担当者レベルの会議を開催し研究中である。今年度策定予定の「千葉市学校教育推進計画」に、小中連携・一貫教育の推進が位置付けられており、小・中学校の接続に配慮した教育の推進について研究するとともに、小中一貫教育の調査・研究を行い、各地区の実情に応じた小中一貫教育校を設置することとしている。小中一貫教育校設置に当たっては、小学校と中学校とが隣接していることが条件の一つとなろう。小学校と中学校とが一体となって子どもたちへの指導に当たるためには、教員同士も子どもたち同士も日常的な交流が必要と考えるからである。また、小・中学校ともに適正規模であることが望ましく教育効果も高いただろう。クラス替えができない、学年内で大きなグループを作ることができない、配置される教員の数に限りがあるといった小規模校の課題は、小中一貫教育校にすることで解決されるわけではないからである。真砂地区で小中一貫教育校を設置しようとした場合、中学校の規模が問題になるだろう。小中一貫教育校の検討よりも、小規模校の課題を解決することが先決であると考えている。

〈久保田委員〉

小中一貫教育校の設置について、学校の立地や規模などの条件があるとのことでは、千葉市として本当に設置する考えがあるのか。

〈事務局〉

教育効果について十分に調査・研究を進め、千葉市内の各地区の実情に応じて設置を検討したい。

〈久保田委員〉

真砂地区の中学校への入学率が0.86ということであるが、年々下がっている入学率を見て、教育委員会は対策を講じないのか。また、教員配置の基準は変えれば良いのではないのか。

〈事務局〉

教育委員会は学校教育充実のため、様々な施策を展開しており、今年度末に策定する「千葉市学校教育推進計画」にも、それらが盛り込まれている。この計画は、市民の皆様や現場の教員、学識経験者の意見も踏まえ、知恵と汗を出して作り上げてきたものである。一般の教員は、県の基準により配置されており、千葉市独自で配置することはできない。（なお、入学率はあくまで過去4年間の平均値であり、年々下がっているものではない。）

〈高橋委員〉

「千葉市学校教育推進計画」では、平成26年度までに、小中一貫教育校を6校設置するとある。6校ということは、おそらく各区に1校ずつ設置するということだと思う。小中一貫教育校を設置する際には、小・中学校が隣り合っていることが前提ということなので、仮に、真砂地区で中学校を統合して1校にした場合、中学校から遠い小学校は、小中一貫教育校の対象にはならないということだろうが、横浜市は、小中一貫教育校の先生が自転車で学校を行き来しているそうである。千葉市は横浜とは異なる考え方をしているのかと思う。このことは、中学校を統合する際に、具体的にどちらの学校を残すのかという話につながるのではないのか。

〈事務局〉

小中一貫教育校の「何がよくて、何が悪いのか」ということを検証していく必要がある。検証の上、良いところは千葉市の教育に取り入れていきたい。そのためには、小・中学校について、適切な学校間の距離や学校規模の条件のもとで小中一貫教育校を設置し、教育効果を検証したいと考えている。「千葉市学校教育推進計画」にある達成指標（小中一貫教育校の設置数6校）は、目標値として示したものである。（現在、小中一貫教育校に法的規定はないので）横浜市ではいわゆる小中連携教育も含めて小中一貫教育と呼んでいるようだ。

〈高橋委員〉

いわゆる「中1ギャップ」は、千葉市では問題になっていないのか。

〈事務局〉

このことについて小中連携教育にかかわったことのある現場の教員と協議をしたことがあり、千葉市ではそれほど問題ではないとの意見をもらっている。ただし、小・中学校の教員の交流は必要であり、そのためにも小中一貫教育校となる小・中学校の位置は、隣り合っている方が良いと考える。隣接している学校同士の一貫校が実現できるのか、それとも「小中連携」とするのが現実的なのかなど、様々な観点から研究していく必要があるだろう。

〈佐々木委員〉

何かを議論をするためには、そのメリットとデメリットを知っていることが必要である。「検証」というのは、ある仮説がある上で、それが良いかどうか証明するということである。私が求めたものは仮説ではなく、メリットとデメリットであり、実績に基づいた結果を出してほしいとお願いしたと記憶している。今の答えは、担当者レベルの会議で話し合われたことの報告であり、小中一貫教育校を議論するための資料とは言い難い。

〈事務局〉

まだその段階まで研究が進んでいないということである。

〈富田議長〉

小中一貫教育校については、この場で結論が出るわけではない。今後の研究成果については、必要に応じて随時提示していただきたい。

イ 真砂地区の中学校の適正配置の方向性について

〈富田議長〉

次に、本日の中心テーマである「真砂地区の中学校の適正配置の方向性について」協議を行いたい。

〈久保田委員〉

確認だが、真砂地区の小学校の適正配置の方向性について決まったことは何か。真砂第五小の扱いについてはどうなったのか。

〈富田議長〉

小学校の適正配置の方向性については、本協議会委員の多数決で、「真砂第二小と第三小、真砂第一小と第四小との統合」という方向が決定している。真砂第五小については、今の時点では検討対象としないということである。

〈北澤会長〉

真砂第五小に子どもたちが通学している真砂1丁目において、真砂1丁目団地の建て替え計画の方向性が平成21年6月頃までにまとまるとのことである。その結果によっては真砂1丁目本協議会に加わることもあるが、真砂1丁目としては、それまでの協議内容は尊重することになっている。

〈富田議長〉

中学校の適正配置の方向性を話し合う際には、学校をいつ統合するのか、小学校と中学校を同時に統合するのか、小学校が先なのか、中学校が先なのかといった「統合時期と順序」と、どこに統合校を設置するのかといった「統合場所」、さらに「跡地の活用」等については、この議論とは切り離していきたいと考える。これらの問題については、中学校の適正配置の方向性がまとまった後、協議していくのでご協力をお願いします。

協議に先立ち、まず真砂第一中学校区の保護者代表の委員におかれては、去る2月28日、土曜日に真砂第一中・真砂第二小・真砂第三小合同の保護者対象説明会を開催したと伺っているので、その説明会の状況報告をお願いします。

〈阿部委員〉（真砂第一中）

説明会とは関係ないが、事前に保護者にアンケートを実施し、自由意見を学校別にまとめたものがあるので配布する。

説明会では、保護者から「代表協議会が始まってかなり時間も経っているので、もっと統合について明白な説明があると思ったのに、このタイミングで、何の説明をしたいのか」「保護者を集めるということは、保護者から出た意見が反映されるのか。意見が届かないのであれば、説明会そのものが無意味で、協議会の進行報告でしかないだろう」「統合は、何年何月までに行うのか等、もっと明白な統合のスケジュールを設けてほしい」といった意見が出た。また、「協議会が立ち上がる前に地元説明会があっただけで、その後、いつのまにか代表者が決まり、話し合いも勝手に進んでいる。その協議会委員の多数決で決まるようなことがあっては、納得がいかない」「保護者の声が届かないのなら、保護者への説明など必要ないだろう」とも言われた。真砂第一中学校区での保護者の意見は様々である。アンケートは、大まかに、「協議会が行われていることを知っているか、知っているのであれば、どの程度知っているか」「統合に際して不安があるか」「統合に賛成か反対か」という質問項目で、その最後に、自由意見を記入してもらった。その結果が、いま述べたような意見である。

アンケートの結果は、真砂第二小では、全255世帯のうち199世帯から回答があり、統合に「賛成」が70、「反対」が42、「わからない」が82、無回答が5であった。真砂第三小では、全146世帯のうち130世帯から回答があり、「賛成」が75、「反対」が13、「わからない」が42、無回答は0であった。真砂第一中学校は、全213世帯のうち203世帯から回答があり、「賛成」が79、「反対」が39、「わからない」が85であった。

統合については、「教育委員会や上の人たちが決めたとおりになるのなら、早く統合のスケジュールを決めて、統合に向けての準備をさせてほしい。統合の時期がいつになるかわからないし、ましてや統合するかどうかもわからないのでは、不安な毎日である」という意見があった。さらに、兄弟がいる場合や統合の時期に中学三年に当たった場合の対応等に不安があるようである。

私自身、今は中学校のPTAの代表として出席しているが、私の一意見で、統合に賛成・反対と表明できかねるのも事実である。説明会を開催したのが良かったのか、悪かったのかについても測りかねている。

〈富田議長〉

教育委員会としては、統合ありきではなく地元の意見を聞くという姿勢である。また、各団体の代表者の方には、協議会で話し合った内容やまとまったことを所属団体に持ち帰り、理解していただくとともに意見を吸い上げることが必要である。今のお話を伺っていると、保護者は、この協議会で話し合われた内容について、あまりご存知なく、統合するのであれば、そのスケジュールが知りたいということである。スケジュールはこれから出るだろう。しかしその前に、統合「する」か「しない」か、保護者や地元の方々の意見を聞くために、今までこの協議会で議論してきたと理解している。その結果、小学校については統合する方向で決まった。この協議会として、今日は、中学校の統合の方向性を検討していただきたい。

前回の協議会では、「真砂地区の中学校の適正配置について、教育環境をいかによくすべきか」との視点で協議をしていただき、前向きな意見を多くいただいた。また、協議内容については、委員の皆様が各所属団体に持ち帰り、情報提供と意見収集をしていただいたと思う。そこで、保護者の代表の方から、その結果等を踏まえて意見を伺いたいと思う。

〈黒川委員〉

説明会では、保護者から、様々な意見が出た。統合するのであれば、特に時期について気にしているようである。説明会では、統合の時期についての説明はなかったの、「収穫がなかった」という意見もあった。また、「私が反対したところで、統合しないわけではないだろう。そうであれば、統合したほうが良いのではないか」という意見もあった。

〈大野委員〉

教育委員会のホームページでも協議会の議事録を公開しているので、適正配置について、保護者には伝わっていると思っていたが、実際には協議会があること自体も知らない保護者もいた。

〈阿部委員〉

先ほど発表した意見は保護者から出た意見である。説明会で、協議会後には、議事内容を学校のお便りで保護者に伝えることになった。保護者は、自分で調べる努力をすれば良いのに、それはしないで、協議会の内容をきちんと報告をしろと言う。我々が、そのような報告を毎回行うことはたいへんで、重荷に感じている。「協議会後には必ず保護者に議事内容を伝え、保護者はそれを見て意見を言うから協議会へフィードバックしてほしい」ということであったが、保護者全員に議事内容を伝え、その意見を聞くためには、保護者全員を集めた説明会を毎回開催しなければならないと思うが、それは無理であるし、そのように保護者一人ひとりの意見を聞いていたら、協議は進まないと思う。4月には保護者会役員の改選があり、協議会委員も変わるの、どこでどうまとめていけばいいものか困っている。

〈事務局〉

それぞれの団体ごとにやり方があると思うが、例えば、他の地区では、保護者会で簡単なお便りを作り、保護者に配布して意見を聞いたり、学校に資料が置いてあることを周知したりしているところがある。またお便りを出す前に、正確な情報となるよう、事務局に校正を依頼される場合もある。事務局としても、お手伝いできることがあればさせていただく。

〈北澤会長〉

「代表者が話し合った内容を各団体に持ち帰って報告し、意見をまとめて、また協議会で報告する」ということで、この協議会はスタートしている。

〈事務局〉

議事録や資料は教育委員会のホームページでも公開しているので、そのことをお知らせしても良いだろう。先日の真砂第一小と真砂第四小の説明会でも、事前に質問をいただき回答書を作成し、当日配布して説明するという形にした。

〈富田議長〉

代表者の方には、お忙しい中でも、保護者に説明していただきたい。先ほどの保護者からの意見でも、統合のスケジュールがどうなるのかを早く知りたいという意見が多かったようだし、統合すること自体は了解しているという意見も多くあったのではないかと思う。小学校の統合については、前々回の協議会で統合の方向性が決まった。今日は中学校の統合についての意見を伺いたい。

〈久保田委員〉

統合に反対している住民が多い。統合の方向性は、この協議会の中で決まっただけだろう。

〈富田議長〉

中には、反対意見もあるかもしれないが、「真砂地区の方向性」として決めていくということで良いのではないか。

〈矢口委員〉

この協議会で決定したことが、真砂地区としての決定にならなければ、ここで協議する意味がない。保護者や住民の代表が集まっているこの協議会で決めたことは、決定事項だろう。

〈土屋(敏)委員〉

今ここにいらっしゃる方は、それぞれの団体の代表だろう。一人二人に反対意見を言われたからといってふらふらするようでは、代表を降りて交代した方が良いのではないか。この問題に対して、前向きに話し合っていくべきだろう。

〈富田議長〉

この協議会には、地域の代表者が集まっている。地域の住民全員が賛成することはないかもしれないが、この協議会で決定したことが、この真砂地区の意見だと理解している。そうでなければ、代表が集まって協議する必要はないだろう。

〈土屋(明)委員〉

私も岩井委員も、真砂地区に学校が開校してからずっと役員を務めている。今まで話し合ってきた中で、賛成意見も反対意見もそれぞれ様々にあったが、「何が子どもたちのためになるか」という視点で考えてきた。「自分は、地域の代表としてこの協議会に参加している」という自覚がある。

〈岩井委員〉

私も土屋(明)委員と同じ意見である。いわゆる学校関係者が、協議会の委員となり話し合っている。自分は学校評議員の代表として参加しているのと同様に、責任は重いと思うが、保護者代表の方は学校の保護者の代表として、協議会に参加していると思っていた。一部の意見を代表するのではなく、各団体の意見を言うために、代表者が集まってきている。その団体を代表するのに相応しい方を選んでいると聞いていたし、そう思っていた。今ここで、協議会の在り方という元の話に戻ることはナンセンスだし、協議会で決定したことを否定するのでは、協議会を設置して話し合っている意味がない。4月には役員改選がある団体がほとんどなので、3月中に、ある程度方向性を決めようということで話し合っているはずである。自分は、真砂第二小の評議員の方々と話し合った結果、代表としてこの協議会の委員を務めており、代表としての誇りもあるし、評議員には、協議の結果を逐一報告している。また、真砂第二小の校長と教頭にも議事録を見せている。学校の管理者の方は、議事録を読んで理解していただいている。前々回の協議会で、小学校の方向性は決定した。統合校の場所や統合の時期等については今後話し合うこととし、次は中学校の方向性を決めていくということになっていたはずなのに、議論が全く進んでいないではないか。

〈富田議長〉

いまま各委員からあったように、我々は真砂地区の代表であるということをお忘れなくいただきたい。今日の議題である中学校の統合の方向性について、議論を進めたいと思う。真砂第一中の保護者の代表としての意見を伺いたい。

〈阿部委員〉

その前に、協議会委員としての考え方だが、「協議会へは保護者の代表として参加しているのだから、その立場で意見を言ってもらいたい」ということを言われた。矢口委員や岩井委員の意見のように、代表なのだから、自分の意見は保護者の意見だということも理解できるし、この協議会での決定は、真砂地区としての決定ということも理解できる。しかし、私はPTAの会長だから協議会の委員となっただけであり、統合に賛成か反対かについては、私個人の意見であるという考えである。保護者の代表ではあるが、私個人の意見で、統合に賛成か反対かの意見を述べることについては、躊躇している。だから、この協議会で他の方々の意見を聞いている。それから、先日の説明会で、保護者から「なぜ、子どもたちにアンケートをとらないのか。現場の先生の意見も反映されていないのではないか」という意見が出た。先生が意見できない理由は、明確にあると思うのだが、それを保護者は知らないで、クリアにしていきたい。「学校の現場にいる子どもたちや先生の意見を聞かないで、地元代表協議会で協議するというのもないだろう」という意見が出たことも事実である。

〈富田議長〉

子どもたちの意見により、協議会の意見が左右することは妥当でない。「教育」は、保護者である大人が考えるべき問題だろう。また、学校の先生方は、議事録等も読み、適正配置についてはご存知だと思いがいかがか。

〈事務局〉

適正配置について、現場の教員にも情報は公開しているし、「学校適正配置実施方針」も現場の教員の意見を吸い上げながら策定したものである。現場にいる教員は、中立的な立場で保護者等の方々とかかわる立場にある。自分も現場の教員だったが、目の前の状況の中で、精一杯の努力をするのが教員である。

〈矢口委員〉

保護者から、子どもや先生の意見を聞いた方が良いのではないかという意見が出たということだが、今の段階で、子どもや先生方の意見を入れる必要はないだろう。地元代表協議会には子どもたちの保護者が代表で出ており、子どもの意見は聞く必要はないし、先生方の意見を協議会に出す必要もないだろう。子どもたちや先生方の意見は、統合の準備をする段階で入れるべきである。真砂第二中としては、保護者対象に実施したアンケートへの回答にもあるように、中学校の統合には、賛成多数である。ただし、統合する際には、様々な配慮と十分な検討が必要だということである。

〈冨田議長〉

真砂第一小と真砂第四小の保護者代表の方の意見も伺いたい。

〈島村委員〉

真砂第一小と真砂第四小は、協議会で話し合っていること自体を理解していない保護者が多かったことから、昨年中に説明会を開催した。保護者の関心は、統合のスケジュールにあったので、「具体的なスケジュールも出ておらず、協議会で今まで何をやっていたのか」というのが真砂第一小の保護者の主な意見のようである。それから、協議会の委員は、学校の代表として来ていることについてだが、真砂第一小では、協議会委員を務める保護者の代表を選出する際、保護者の方々に委員に手を挙げる人が誰もいなかったもので、保護者会長である私が代表として委員になることが決まった。したがって、私がこの協議会で述べる意見について、保護者の同意は得られているという前提で話して良いのではないかと考えている。そして、もし許されるのであれば、4月に保護者会役員の改選があり、保護者会の会長も替わるが、私としては、地元代表協議会の委員は続けるつもりである。替わった方に今までの経緯等を正確に伝える自信もないので、自分がこのまま務めようと考えている。その際には、保護者総会で、保護者の方々に報告し承認していただこうと思っている。保護者の代表として協議会委員を務めているということが、「委員の意見は保護者を代表した意見である」という根拠になるのではないか。

〈中家委員〉

真砂第四小も、協議会の委員を選出するにあたり、保護者へ公募したが手を挙げる人が出なかったため、保護者会の会長が協議会の委員となった。保護者への周知を図るために、真砂第一小と合同で説明会を開催したし、協議会の内容等については、「報告書」を発行して保護者に周知している。自分は、保護者の代表としてこの協議会に参加しているつもりである。

〈土屋(明)委員〉

その通り。自信を持ってやるべきである。

〈冨田議長〉

ここで、中学校を統合について、委員の皆様順番に意見を伺いたい。

〈久保田委員〉

中学校はまだ統合しなくて良いのではないか。人口は減らないし、集合住宅も建つ。あそこの花屋も撤退して集合住宅が建設されるそうであるし、まだ空き地もある。今後、子どもの状況も異なってくるだろう。それから、統合ではなく、教員の配置は変えていけば良いし、子どもを増やす努力をすることが先決ではないか。公団住宅等に働きかけて、若い人が住めるようにすれば良い。そうして人口が増えれば、統合の必要はない。学校は災害時の拠点にもなるし、減らさない方が良い。

〈高橋委員〉

真砂第一中学校区のアンケート結果を見たが、反対する保護者はあまりいない。適正配置に反対する保護者が圧倒的に多くなければ、統合すべきである。

〈佐々木委員〉

先ほど、ここに参加している根拠について問いかけられたが、自分は、昨年5月に自治会長になり、前任の会長から、この協議会の委員も引き継いだ。阿部委員さんが言うように、真砂第四小学校区、真砂第二中学校区の自治会の方がどう考えているかわからないと不安だということがあって、地区連の会合等で問いかけてほしいと言っていた。委員の根拠が弱いという悩みを抱えながらも、月1回の役員会で、協議会の報告はしてきた。他の自治会には報告はしていない。また、自分でもいろいろと資料を集めて勉強し、そこで見つけた県議会の決議も紹介した。このような立場での発言だということを、ご理解いただきたい。私は、前回の協議会の議事録6ページにある統合すべきでないという意見を変えることはない。議論をするためには、もっと客観的な資料が必要だろうという考えを、今でも強く持っている。学校を統合するということは、大きな改革なのだから、やるのであれば学校区の扱いを大胆に見直したり、小中一貫教育校についても検討したりする必要があるだろう。そうしないと、活性化しないのではないか。

〈土屋(敏)委員〉

前々回の協議会では、中学校は2校とも残しても良いのではないかという内容の意見を述べたが、その後私事で協議会を2回欠席させていただいた。(その間の議事録や資料を読ませていただき)現状では、子どもが少なく学校が寂しいのではないかと思い始めている。中学校の統合についてもやむを得ないと思う。

〈岩井委員〉

統合やむなし。理由は前回協議会で述べたとおりである。

〈嶋田委員〉

事務局に教えてもらいたいが、小学校4校を統合すると、400～500人規模の学校が2校できるのに、中学校2校を統合しても400人程度なのはなぜか。

〈土屋(明)委員〉

中学校は3学年しかないからだろう。

〈嶋田委員〉

中学校は、小規模校が良いのではないかとと思うが、地元の意見として「統合やむなし」であれば、早めに統合した方が良いのではないかと。親の意見と言っても、自分の子どもが卒業してしまえば関係ないという人も多いだろう。岩井委員の意見である「統合やむなし」に賛成である。

〈土屋(明)委員〉

時代も時代であるし、統合する時期がいつになるのかわからないというのでは、協議会で話し合っている意味もない。いつ統合するか決め、新しい学校づくりを考えていった方が気分もいいし、住民への説明もしやすいだろう。自分の子どもが中学生の頃は、700～800人いた。統合する方向を決めた上で、住民がどのような学校にしたいかという要望を出せるようにしていきたい。中学3年生は受験の心配もあるだろうが、大丈夫だろう。

〈森本委員〉

子どもたちのためを思うのであれば、統合した方が良い。集合住宅が建設されても、子どもが増えるかどうか、増えたとしても真砂地区の学校に入学するかどうかはわからないし、建設された時に増えるだけで、今後また同じ問題が起こるだろう。また、免許外の教科を担当する教員が出ないように、子どもたちへの指導体制を整えてほしいとも思う。部活動も、子どもや先生が減ってしまったため、設置すること自体できないような状況では、子どもたちの能力を十分に伸ばすことはできないのではないかと。自分の体験であるが、小学生の頃、近くに中学校が新設された。私はそこには通えなかったが、説明などなくても、通えないことは理解できた。また、小学校の同級生は中学校が分かれたが、同じ学校に行けない心構えはできていた。統合することにより、子どもたちの精神的な面が強くなることもあるのではないかと。

〈成田委員〉

中学校は統合したほうが良い。統合した方がメリットも大きいし、子どもたちのためになる。そして、統合することにより地域を活性化させて、真砂地区に子どもたちがたくさん来るようにしたい。子どもたちが少ないということが、第一の問題であるから、それを解決したい。

また、反対意見には反対する理由があるはずで、その理由は、統合にあたり解決すべき問題を含んでおり、示唆に富んでいるものである。無視せずに解決していく方向に向かうことが大事だろう。それが一番良い方法である。

〈島村委員〉

中学校の統合に、賛成である。

〈黒川委員〉

中学校の統合に、賛成である。

〈大野委員〉

統合した方が良いかどうかはわからないが、小学生の保護者の意見は、「子どもたちのことを第一に考えてほしい」というものである。

〈中家委員〉

保護者の中には「わからない」という意見もあるが、メリットを考えると統合したほうが良いのではないかと。

〈阿部委員〉

中学校が統合すること自体は賛成だが、時期的なものを考えると賛成しかねるところもある。

〈矢口委員〉

小学校は統合することに決定した。それに伴い、中学校も統合するべきである。真砂第二中の現状を考え、今後のこと等も考慮すると、統合するべきだと思う。

〈安井委員〉

シミュレーションや学校の状況を見て、子どもたちのためを考えるのであれば、中学校は統合した方がよい。

〈冨田委員〉

中学校は統合した方がよい。

〈北澤会長〉

子どもたちのことを考えると、統合するべきだろう。

〈冨田議長〉

委員の皆様意見聞いた。中学校の統合について、反対の方は3人くらいで、賛成多数のようである。

〈佐藤相談役〉

県立高校の現在の学級数について教えていただきたい。

〈事務局〉

県立高校の所管は県であり、義務教育とは異なり学校の定員が決まっており、1学級40人である。

〈佐藤相談役〉

子どもたちが互いに切磋琢磨し、大勢の中で健やかに育めるよう、統合には、強く賛成したい。

〈冨田議長〉

中学校の統合について、「賛成」が15名、「反対」が3名、「わからない」1名だった。真砂地区の協議会の方向としては、中学校の統合については、「賛成」としてまとめたい。よろしく願います。

中学校の方向性が決まった。統合の時期、小学校が先か、中学校が先か、同時にするか等、様々な課題が残っているが、今後は、話し合いのスケジュールを事務局に作成していただいて、協議会を進めていきたいと思う。

〈事務局〉

今後どのような協議が必要かということだと思うが、来年度以降、協議する内容としては、おおそ次のようなものがあると思う。

まず、小学校と中学校の統合の順序についてである。

小学校で統合を経験した子どもが、中学校でまた統合を経験することを避けるための解決策としては、「中学校を先に統合し、その後小学校を統合する」または、「中学校と小学校を同時に統合する」または、「小学校を統合し、1年後に中学校を統合する」または、「小学校を統合し、8年後に中学校を統合する」の4つのケースがある。

次に、統合の時期についてであり、何年度に統合校を開校するかということがある。

それから、統合場所について、どこに統合校を開校するかということがある。統合校は、既存の校舎をリニューアルして使用するというのが、千葉市の考え方なので、どちらかの学校を改修することになる。

そして、跡地の活用をどうするかという課題がある。このことについては、地元や保護者方々の要望を取りまとめていく必要がある。

以上、今後の協議の内容は、大きく分けてこの4つだろう。協議してまとまった内容については、教育委員会に要望書として出していただくことになる。

〈北澤会長〉

統合校が開校する時期は、最短でいつか教えていただきたい。

〈事務局〉

あくまで最短のケースとして、仮に来年度（平成21年度）の12月頃までに、話し合いがまとまり、教育委員会に要望書を提出していただければ、再来年度（平成22年度）には、統合準備会で協議し、交流の期間を経て、最短で平成23年度（平成23年4月）に、統合校を開校できると考える。

〈成田委員〉

校舎の大規模改修は、いつするのか。一度、統合校にしない学校に移り、改修終了後に、戻るような形になるのだろうか。

〈事務局〉

花島小のときは、子どもたちは平成18年度から2年間は跡地となる学校で過ごし、その間に統合校となる学校を改修して、平成20年度から改修した学校に移っている。

〈北澤会長〉

事務局に要望だが、平成23年度に統合校を開校すると考えた場合の話し合いのスケジュールを考えていただき、次回の協議会で示していただきたい。

〈佐々木委員〉

「実施方針」の7ページに、地元説明会の実施とある。もう実施したかもしれないが、そのときは、統合するかどうか見えていなかった。統合することが決まった段階で、もう一度、地元への説明が必要だろう。

〈北澤会長〉

すべて方向性が決まった後ということだろうか。

〈佐々木委員〉

統合を進めていくのは、千葉市だろう。間接的にではなく、教育委員会が直接、住民の前に出ていくべきである。そうしなければ、地元がぎくしゃくしてしまうかもしれない、本当の意味での統合は難しいだろう。教育委員会が主導して進めても良いのではないか。それを各自治会長等に任せてはだめだろう。

説明会の時期や方法は教育委員会に考えていただきたい。

〈土屋(敏)委員〉

どの学校を残すか、跡地をどうするかという問題は、住民の意見を聞かないといけないだろう。

〈事務局〉

個々の協議会の内容については、委員の皆様を通じて、各団体におろすとともに意見を集約し、話し合いを進めていただければありがたい。

9 諸連絡

〈事務局〉

今年度の協議会は本日で終わりだが、話し合いは来年度も続く。委員によっては所属団体の役員改選に伴い、替わることもあるだろうが、今年度と同様の考え方で、協議会委員を選出していきたい。

8回にわたる協議に対して、委員の皆様には、課長よりお礼のご挨拶を申し上げます。

〈教育総務部企画課長〉

真砂地区地元代表協議会は、一昨年に立ち上がり、今日まで1年3か月、8回にわたり協議をしていただいた。皆様には、学校適正配置の問題に真正面から取り組んでいただき、感謝している。まだ課題も多く残っており、審議も十分ではないが、適正配置の必要性については、理解が深まってきたのではないかと感じている。今年度の協議会は本日で終了し、来年度に引き継ぐので、役員の改選で協議会委員が替わる団体においては、引き継ぎを十分に行っていただき、来年度の協議がスムーズにいくようお願いしたい。協議会委員ではなくなったとしても、皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りたい。寒い日が続いているので、健康に留意され、活躍されることをお祈りしてご挨拶とさせていただきます。